

## 算数のセンス②

算数のセンスとは概算能力・なんとなくこれくらい?というのが出せる!ということは以前お話しした通りです。

では、そのセンスをどのように身につけるのか?

本来、「数字」は無機質でイメージがつくものではありません。数学を考えると「イメージ」ではなく、文字式に落とし込み、いかに効率よく、迅速に解くかが大事になります。これは、車で言えば、カーナビで最短距離をいっているようなものです。効率的で、早い。しかし、小学生のうちに鍛えてほしいのは「センス・イメージ」の方です。車でたとえるなら回り道をして迷いながら、目的地までたどり着く。時間はかかりますが、道全体の構成、工事中の道があった場合の抜け道、様々な応用ができるようになります。これが「算数」です。小学生のうちは「数学」ではなく「算数」であることに意味があると思っています。

冒頭に戻りますが、では算数のセンスはどのようにして身につけるのか?算数とは「数字に意味を持たせることです。「10」というのは無機質なものですが、「10 cm」、とが「10 本」とが「10 kg」とが単位をつけることで数字に意味を持たせることができ、イメージができるようになるのです。※「10」を想像してみても意味が分からないですが、「10 cmのものを想像してみても!」なら意味が分かりますよね。

何も座学でなくても、身近なものからセンスを、磨くことはできるのです。

- ・家から駅までは何mくらいだろう?
- ・家から駅まで何分かかる?(そこから人間の歩く「速さ」が感覚的に理解できる)
- ・お母さんの持っている荷物は何kg?
- ・スーパーで買い物。カゴの中のもの全部買うと何円だろう?
- ・休日は車でお出かけ。時速は何kmだろう?
- ・2ℓのペットボトルと500 mlのペットボトルを比べてみよう!どちらが大きいかな?



こういうトレーニングは低学年から実行できます。

ぜひ身近なものから「数字」をイメージしてみてください。センスが磨かれますよ